

対策案の具体化・実施について

(1) 対策案の具体化・実施に向けた整理

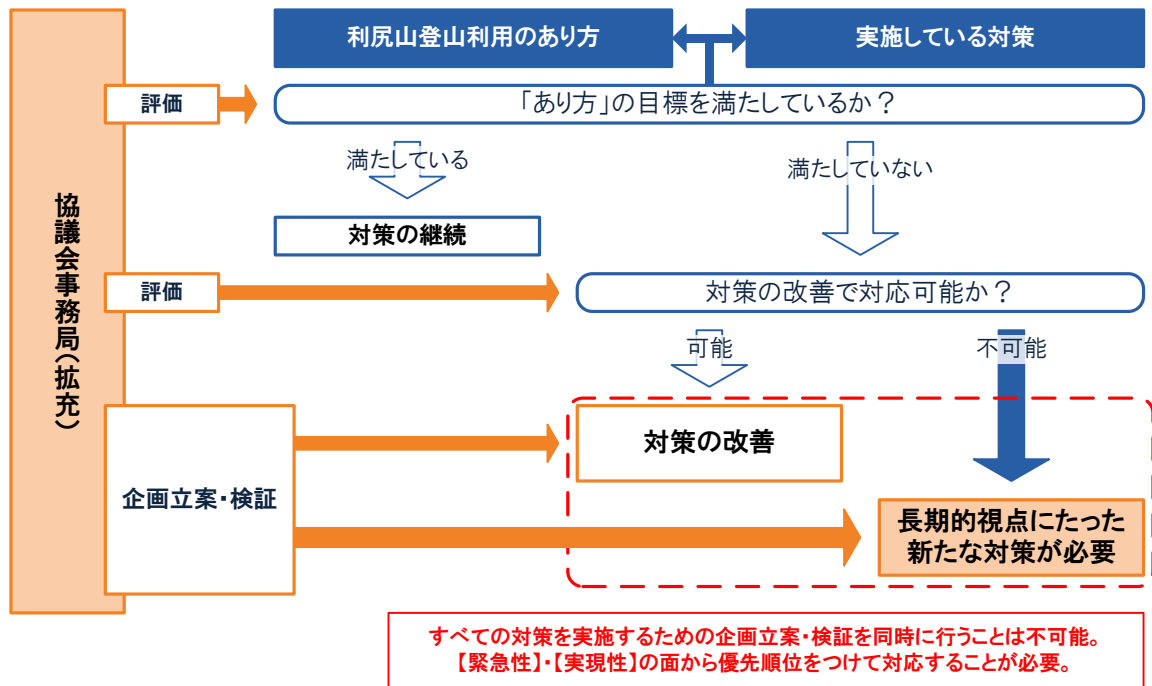


図 協議会事務局（拡充後）が扱うべきテーマの抽出イメージ

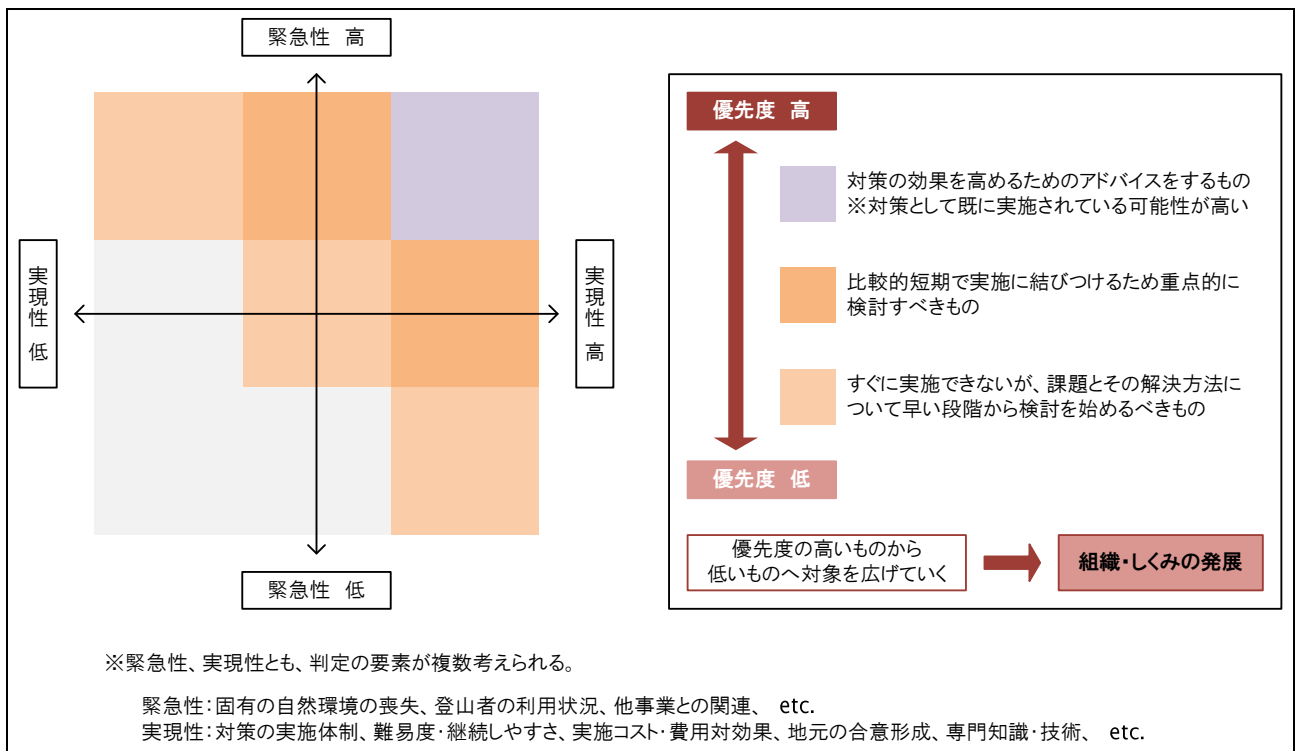


図 対策の優先度決定イメージ

(2) 対策案・すでに実施されている対策の整理について

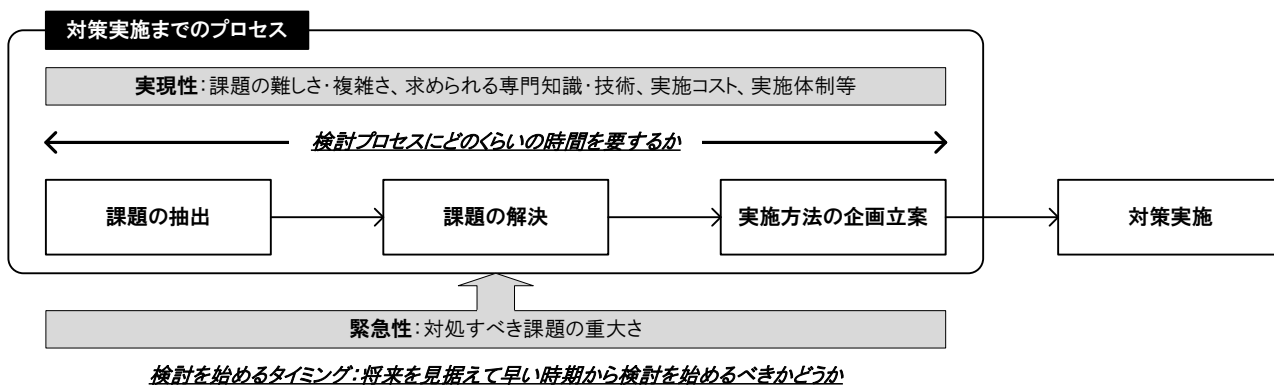
対策案の実施に向けた具体化や評価については新たな体制にゆだねていくこととなりましたが、対策案やすでに実施されている対策への今後の対応の方向性を整理するために行います。

新たな体制で取り組みを始めるにあたって目安となるものを想定したまとめを考えており、本検討会から協議会(事務局)への提案の一つとなるような整理を目指しています。

<対策案の整理の視点>

■整理の視点とその評価基準

- 緊急性：対処すべき課題の重大さ→検討を始める時期・タイミングに関係する。
- 実現性：対策実施までに要する時間・労力の大小→検討プロセスに要する期間に関係する。



緊急性の分類

対策の実施に向けた検討を始める時期・タイミング

- 1: すぐに着手すべき
- 2: 3年以内に着手すべき
- 3: 急がない
- 4: 実施する必要はない

実現性の分類

対策の実施に向けた検討プロセスに要する期間

- 1: 短期(1~2年程度)で実現可能
- 2: 中期(3~5年程度)での取り組みが必要
- 3: 長期(5年以上)での取り組みが必要
- 4: 対策の実施は非常に困難

<すでに実施されている対策の整理の視点>

■ 既に実施されている対策の今後の方向性

今後の方向性の分類

- 1: このまま継続
- 2: 改善が必要
- 3: 実施する必要はない(当初の目的を達成した)